

平成30年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：斑点米カメムシ類 (No. 3)

平成30年7月20日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

斑点米の原因となるカメムシ類が、水田周辺のイネ科雑草地などで平年並～やや多く発生しています。

今後、出穂期を迎え、カメムシ類の水田への侵入加害による斑点米被害の発生が懸念されますので、**穂揃い期から乳熟初期の適期防除を徹底してください。**

2 発生状況

- (1) 7月15日～17日に行った巡回調査定点のすくい取り調査の結果、水田周辺のイネ科雑草地などでは、アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ホソミドリカスミカメ類、トゲシラホシカメムシなどの発生がみられている。
- (2) **捕虫網5往復10回振りすくい取りによる平均成幼虫数は315.0頭(平年：313.8頭)**であった。地域別では、東部および中部は平年よりやや多く、西部は平年並であった(表1)。
- (3) アカスジカスミカメは県下全域で発生がみられ、特にイタリアンライグラスが優占する雑草地・休耕田などで発生が多く、高密度に発生している地点が散見される。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 水田周辺の雑草地、畦畔などのイネ科雑草はカメムシ類の増殖源となるので、適正な管理を行う。

ア 早生品種等、7月下旬～8月上旬に出穂するほ場

出穂20日前頃に畦畔等の草刈りを行ったほ場では、再生したイネ科雑草が出穂する前に再度草刈りを行うと、カメムシ類の密度がさらに低下する。一方、出穂20日前頃に畦畔等の草刈りを行っていないほ場では、穂揃い期から乳熟期に草刈りを行い、その直後に、水田に追い込まれたカメムシ類を粉剤、水和剤などで防除する。

イ 遅植えほ場、中生品種等、8月中旬に出穂するほ場

イネの出穂20日前頃及び出穂期にイネ科雑草の草刈りを行って、カメムシ類の発生源を少なくする。ただし、イネの出穂期以降に、穂を付けたイネ科雑草の草刈りを行うと、穂で増殖したカメムシ類を水田に追い込むので、出穂期の草刈りはイネ科雑草が穂を付ける前に行う。

- (2) 水田内で穂をつけたヒエ類はカメムシ類の発生を助長するので、見つけ次第抜き取る。

- (3) 薬剤防除を適期に行う。

ア 粉剤、水和剤などを使用する場合

薬剤防除は穂揃い期から乳熟初期に行い、その後も発生が多い場合は7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。防除は地域一斉で行うと効果が高い。なお、出穂前散布

の防除効果は期待できない。

イ 粒剤を使用する場合

病虫害防除指針等を参考にして、各薬剤の散布適期に湛水散布を行う（湛水散布にあたっては、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項などを確認するとともに、止水期間を7日間とし、また、農薬の流出を防止するために必要な措置を講じるように努める）。また、散布後も発生が多い場合は粉剤、水和剤などで追加防除を行う。

表1 水田周辺のイネ科雑草地などにおける斑点米カメムシ類の発生状況（7月中旬）

地区	年 (地点数)	カメムシ類の種類別成幼虫数								合計
		アカシ	ホミドリ	ホハリ	トゲシ	シラホシ	クモリ	ムギ	クアシ	
東部	H30(12)	348.0	1.2	1.7	1.0	0.4	5.1	0.0	0.0	357.4
	平年	203.2	1.8	3.5	1.0	0.4	6.7	0.5	0.3	217.4
中部	H30(6)	248.8	5.8	0.3	0.8	0.1	0.3	0.1	0.0	256.2
	平年	173.4	6.3	0.9	0.6	0.2	4.1	1.2	0.4	187.2
西部	H30(12)	290.1	4.4	1.2	0.1	0.0	5.9	0.3	0.0	302.0
	平年	363.8	5.5	2.9	0.5	0.3	6.5	1.2	1.3	382.0
県全体	H30(30)	305.0	3.4	1.2	0.6	0.2	4.5	0.1	0.0	315.0
	平年	297.0	4.9	2.2	0.8	0.5	6.2	1.1	1.0	313.8

注) 数字は捕虫網5往復10回振りすくい取り成幼虫数。3か所/地点の雑草地などを調査。
 アカシはアカシカスミカメ、ホミドリはホミドリカスミカメ類、ホハリはホハリカメムシ、トゲシはトゲシホシカメムシ、
 シラホシはシラホシカメムシ、クモリはクモリカメムシ、ムギはムギカスミカメ、クアシはクアシホリナガカメムシを表す。
 平年値は平成20年～29年の平均値(ただし、平成23年～26年は欠測)。